

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2018年9月10日

報告書名：平成29年度 日本NGO連携無償資金協力事業 中間報告書

平成29年度 日本NGO連携無償資金協力 中間報告書

2018年9月10日

事業名	ヌワコット郡、ラスワ郡の被災小学校における防災能力強化事業 Strengthening Resilience of Earthquake Affected Schools in Nuwakot and Rasuwa district, Nepal.
事業対象地	ネパール ヌワコット郡、ラスワ郡
事業期間	事業期間：2018年2月28日～2019年2月27日
公的資金種別	平成29年度 日本NGO連携無償資金協力
契約金・支出状況	契約額：591,810米ドル（支出額：132,302米ドル）
プロジェクト目標および、達成度	<p>本事業は「対象の小学校の防災レジリエンス（能力）が高まる」ことをプロジェクト目標とし実施されている。事業はほぼ計画通りに進んでいる。達成度は以下の通り。</p> <p>（ア）【2年次指標】対象校（6校）が再建された学校校舎を利用している。</p> <p>&lt;1年次建設校&gt; 3校とも校舎完成後にヌワコット郡の教育省および復興庁の校舎建設監督機関である District Level Project Implementation Unit (DLPIU)の現地検証を受け、設計図通りに完成したことを認証する書簡を受領した。</p> <p>工事完了6カ月後の2018年6月に瑕疵責任の検査を実施し、建設会社、学校、当会の間で合意された小規模の修復工事を建設会社が実施した。</p> <p>&lt;2年次建設校&gt; 3校の校舎を建設中であり、現時点では達成されていない。</p> <p>（イ）【2年次指標①】対象校（6校）の教員の65%以上がおはなし、ゲーム、教材制作、場づくりを実施している</p> <p>&lt;1年次建設校&gt; 3校の校長へのインタビュー調査の結果、22名の教員のうち68%にあたる15名が図書（紙芝居等）の読み聞かせを実践した。</p> <p>&lt;2年次建設校&gt; 現在対象校の図書コーナーに配架する絵本の選定と防災教育教材の開発を行っている最中であり、現時点では達成されていない。</p> <p>【2年次指標②】対象校（6校）の子供の65%以上が図書室もしくはコーナーを利用している</p> <p>&lt;1年次建設校&gt; 3校の校長へのインタビュー調査結果および5年生26名への質問紙調査の結果83.3%の児童が図書コーナーを日常的に利用し、1人当たり1か月に読んだ本は30.5冊である。</p> <p>&lt;2年次建設校&gt; まだ活動を実施していない。</p> <p>（ウ）【2年次指標】対象校（6校）の65%以上が独自の学校防災計画を利用している。</p>

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2018年9月10日

報告書名：平成29年度 日本NGO連携無償資金協力事業 中間報告書

<1年次対象校> 3校とも学校の敷地、校舎の階数、配置、運動場のスペースに応じた学校防災計画を策定し、教員室に掲示している。また避難訓練を実施した。目標は達成された。

<2年次対象校> 現在、防災研修の準備段階であり達成されていない。

(エ)【2年次指標①】対象校(6校)の教員、学校運営委員会、地域住民、郡教育局の65%以上が防災に関する必要な知識を有している

<1年次対象校> 対象3校の児童(5年生16名)、教員11名、学校運営委員会および地域住民(保護者)6名へのアンケート調査を防災活動前の2017年10月と2018年5月に同じ人物に対して行い、事業の効果を測定した。結果は以下の通りで目標値を達成している。郡教育局職員は、連邦制度の導入により2017年度で郡教育局が解体されてなくなったためデータを収集できなかった。

質問	対象	事業前	事業後
地震発生の原因を知っている。	児童	0%	50%
	教員	45%	91%
	SMC,保護者	0%	50%
地震が起きた時どうすれば良いか知っている。	児童	50%	100%
	教員	100%	100%
	SMC,保護者	83%	100%

また教員へのアンケート調査結果は、教員が防災についての理解が高まっただけでなく、防災について児童に教える能力も高まったことを示している。

質問	事業前	事業後
地震について児童に教えたことがある。	64%	100%
地震が起きた時どうすれば良いのか児童に教えることができる。	64%	100%

<2年次対象校> 現在は研修の準備段階であり、達成されていない。

【指標②】対象校(6校)に通う子ども及び親の65%以上が学校防災計画の存在を認知している。

<1年次対象校> 3校の校長へのインタビュー調査結果は以下の通りで、児童については目標値を達成しているが学校運営委員会および親の避難訓練の際に行った学校防災計画の説明会の参加者が25名と少ないため、親については達成できていない。

	学校防災計画を理解している児童の割合	学校防災計画を理解している親の割合
Ramchandra 校	60%	30%
Sita Dharma 校	50%	35%

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2018年9月10日

報告書名：平成29年度 日本NGO連携無償資金協力事業 中間報告書

	Shanti Devi 校	65%	50%
	平均	58%	38%
	<2年次対象校> 現在は研修の準備段階であり、達成されていない。		
これまでの 実施内容・状 況	(ア) 教育省の耐震基準に準じた学校校舎の再建： ネパール政府復興庁の承認後、学校建設対象校の3校の校長および学校運営委員会、ローカルパートナー、建設業者と各自の責任と役割についての合意書を署名し、建設を開始した。マヒンドラ校(2階建て6教室)は全工程の35%が完了した。ジャヤブッダ校(2階建て8教室)は20%が完了した。サラスワティ校の3教室は20%が完了した。同校で民間資金によって建設する2教室は、学校の敷地に隣接する道路の拡張によって、当初予定していた建設用地を約2メートル東側に移動せざるを得なくなったところ、民間所有者の敷地に一部かかるため、民間所有者と学校側で用地の交換の合意形成に時間を要したため、用地整備と基礎工事が完了したところである。 児童および学校の安全確保のためにサラスワティ校では擁壁、フェンス、階段を設置し、ジャヤブッダ校ではフェンスを設置することになり、計画変更(経費配分の変更)を在ネパール日本国大使館に申請し、承認された。マヒンドラ校では計画時において擁壁を設置することとされており、変更はない。 3年次対象校選定のための調査を復興庁のヌワコット郡事務所から推薦された8校を対象に行い、校舎建設の必要性が高く、校長および学校運営委員会の熱意が大きく、他のドナーの支援の見込みがない3校を選定した。		
	(イ) 対象校の教員による図書館活動を通した子どもたちの心のケア、防災教育の実践： 昨年度選定した学校建設対象校の図書コーナーに配架する児童書のリストに補充するための新刊図書の発掘と選定を行っている。 防災教育教材の紙芝居作成に関しては、紙芝居ストーリー・絵コンテ原案作成、業者選定が完了し、出版社と共にストーリー・絵コンテの最終版を作成中である。		
	(ウ) 対象校における防災計画の策定 (エ) 対象校の教員、学校運営委員会、地域住民、行政職員の防災に対する理解の向上： 一年次対象校および周辺校の計12校を対象に学校周辺の地域のハザードマップを児童が作成するためのワークショップ(第三回防災研修)のプログラムの開発を防災専門家の助言を得て行った。		
	(オ) モニタリング・評価： 校舎建設については、当会スタッフのエンジニアが週に1回モニタリングを行い、工事と資材の質を確保している。1年次の校舎建設対象校の瑕疵責任検査を完成6カ月後の6月に行い、3校において必要な補修工事を実施した		